

生薬ニュース

近畿大学東洋医学研究所附属診療所調剤室

今月のピックアップ

ちんぴ 陳皮

良と喜ばれ、生薬市場では、十年物、二十年物等の年代物が流通しています。

【性味】 辛・苦、温

【薬能】 理気、化湿、化痰、止嘔、開胃

チンピとは・・・

チンピ：ウンシュウミカン *Citrus unshiu* Marcowicz 又は *Citrus reticulata* Blanco (ミカン科) の成熟した果皮のことです。陳皮の「陳」は陳久(ちんきゅう)すなわち古いという意で、元は陳橘皮(古い橘皮)といわれ、これが略され陳皮となりました。その名の通り、古いものが品質優

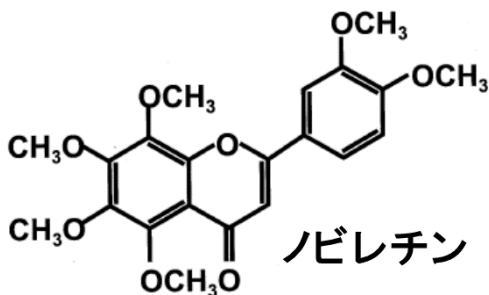


チンピの成分と薬効・・・

精油/d-リモネン 90%以上、フラボノイド/ヘスペリジン(皮や筋に多い)、その他に、ノビレチン、シネフリン、ペクチン、クエン酸などが含まれています。

主な薬理作用として、胃液分泌促進、ペプシン作用低下、リパーゼ作用亢進などがイヌの実験で示されています。

注目の成分：ノビレチン(nobiletin)



ノビレチンは、シークワーサーやポンカンに特に多く含まれているのですが、チンピの基原植物であるウンシュウミカンの果皮にも含まれています。これまでにノビレチンは、発がん抑制、アディポネクチン(インスリンの働きを正常に戻す作用、動脈硬化を防ぐ作用などをもつたんぱく質の一種)分泌促進、炎症抑制、そしてアルツハイマー病(AD)の「記憶障害改善」、「脳コリン作動性神経の変性抑制」、「脳内のAβ(アミロイドベータ)の蓄積抑制」などの作用を併せ持つようで、抑肝散加

陳皮半夏の作用において、チンピが重要な役割を担っていることが明らかにされました。今後の更なる研究の進展が待たれますね。

中国在来種から日本で生まれたミカンへ・・・

中国では、在来種であるオオベニミカン *C. tangerine* や、コベニミカン *C. erythrosa* といった柑橘類の果皮を使っていますが、現在の**チンピ**は主に日本の鹿児島県で生まれたウンシュウミカン（温州蜜柑）の果実の皮が使われています。これは、商業ベースで中国へ導入されたのち、大量に栽培されるようになったため、チンピの原料にも使われるようになったのですが、ここまで広まったのは、何より日本のミカンが美味しく皮がむきやすい、という理由が大きいようです。

数少ない日本産生薬が、近年国内でも中国産が流通するようになったのは、少し寂しい気がしますね。



非時香菓（ときじくのかくのこのみ）・・・

第十一代垂仁天皇が、臣下の田道間守（たじまもり）に、「常世の国には、非時香菓（時を定めずいつも香る木の実）というとても良い香りの美味しい木の实があるというから、探してきてほしい」と命じました。

命じられた田道間守は、海の彼方、常世の国を訪ねる旅に出て、苦労を重ねてようやく「橘」の実を探し当てました。

目的を達成した田道間守でしたが、旅に出てから十年も経っており、田道間守が帰国したときには垂仁天皇は崩御されていました。天皇存命のうちに帰れなかったことを悔やんだ田道間守は、その墓前で「橘」の実を持ち帰ったことを報告し

ましたが、嘆き悲しむあまり、そのまま息絶えてしまいました。

この「ときじくのかくのこのみ」すなわち「橘」は奈良県明日香村と和歌山県海南市に植えられ、それぞれの地に、『橘寺』、『橘本（きつもと）神社』が建てられ、現在に至ります。「橘」を持ち帰った田道間守は、菓子神・菓祖として信仰の対象（豊岡、中嶋神社など）となり、また、みかん・柑橘の祖神としても祀られています。

また、奈良市にある垂仁天皇陵（宝来山古墳）は周りを水に囲まれた前方後円墳ですが、寄り添うように浮かぶ小さな島があり、これは田道間守の墓と伝えられています。

チンピを含む方剤・・・

ちようとうさん

釣藤散（高血圧、更年期障害、頭痛など）

はんげびやくじゆつてん まとう

半夏白朮天麻湯（胃腸虚弱で下肢が冷え、めまい、頭痛、頭重などがあるものなど）

よくかんさんかちんぴはんげ

抑肝散加陳皮半夏（虚弱な体質で神経がたかぶりやすいものの、神経症、不眠症、歯ぎしりなど）

りっくんしとう

六君子湯（胃炎、胃アトニー、消化不良、食欲不振、胃痛、嘔吐など）